



「野間文庫読書推進賞」は、国書館に「野間文庫」が設置されたのを記念して設けられたものであり、地域に読書推進を図る野間清治顕彰会の事業である。



第一回の受賞式は、平成十三年十月十六日、野間清治顕彰会第三回顕彰式の当日行われた。

類田 利一郎



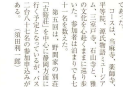
受賞者は、個人賞が相生中の生徒、高田夏子さん、南小の生徒、山崎実央さん、団体賞が、母くまの会（南小がランタイアグループ）と、やよい読書会の、二者二団体であった。島田さん、山崎さんは、共に学校図書館の利用者である。読書量は毎日の習慣となるほど多く、また高田さんは読書の社話も引き受けて、学校全体の読書熱を高めている。

母くまの会は、紙芝居、劇等を通じて小学校の生徒の読書推進に良い関与献している。やよい読書会は、発足以来欠かすことなく月例読書会を開催し、また地域の読書推進運動にも率先協力する極めて優良読書会である。



本年は、第三回野間文庫読書推進賞の授賞式を来る十月十六日に行う予定であり、たまたま選考中である。

第二回野間文庫読書推進賞は、みらの岩手の施設見学と自然探勝」と題する一泊二日のコースで、平成十二年六月三、四日の両日であった。参加者は三十名と少なかつたが、それでも八輪車を揃えて、次いで不來力城跡、原宿記念館、盛岡市、先人記念館、宮沢賢治記念館、高橋玄郎記念館と豊富に見学に参加者は満足した。



第三回は「野間記念館見学と水上遊覧」であった。期日は十二年十一月十九日。第一回の研修旅行が行われたのは、平成十一年十一月二十九日であった。

顕彰会の会員から、野間清治の剛義した講義社を一度は見ておきたいとの要望が出されたのを機会に、講義社訪問が実行された。



その日は、講義社、恵園閣、六義閣、古河庭園のコースであった。特に講義社の新しくなった杜屋の素晴らしい景色に眼を見張り、野間清治の偉業の大さを思い知った。参加者は九十二名であった。

第四回は、平成十三年五月二十九日から三十日にかけて「響の文化を訪ねて、奈良から京都へ」の旅であった。

この研修にも目的があるが、このときは平山郁夫の「薬師寺大菩薩圖」を見るのが主であった。

コースは、鳥羽寺、薬師寺、平等院、源氏物語ミュージアム、三ツ戸寺、石山寺と、響の文化を心ゆくままに巡り歩いた。参加者は泊まりでも七十一名を数えた。

第五回は、野間家の別荘「古跡社」を中心に静岡方面に行く予定となっていたが、バスで八十八名の参加申込みがある。（須田利一 記）

野間文庫読書推進賞

（読書推進・研修担当）

れることもない。
そして来年五周年となる。
歳月は飛ぶように去って行くが、昨年度に於いて講義社の絵本の復刻版を贈りつつ夢中で読んで、絵も美しく語りもよい。徳富蘇峰が「私設文庫」と野間清治に手紙を書いた

たことがよく分る。時代が大きく変わりゆく中で時代と共に出版文化を世界に発信し続ける事を、毎年の献花式で祈っている。固ながら一冊の本から世界中に心が飛んで行ける読書ほど素晴らしい趣味はない。

の生徒、山崎実央さん、団体賞が、母くまの会（南小がランタイアグループ）と、やよい読書会の、二者二団体であった。島田さん、山崎さんは、共に学校図書館の利用者である。読書量は毎日の習慣となるほど多く、また高田さんは読書の社話も引き受けて、学校全体の読書熱を高めている。

母くまの会は、紙芝居、劇等を通じて小学校の生徒の読書推進に良い関与献している。やよい読書会は、発足以来欠かすことなく月例読書会を開催し、また地域の読書推進運動にも率先協力する極めて優良読書会である。

本年は、第三回野間文庫読書推進賞の授賞式を来る十月十六日に行う予定であり、たまたま選考中である。

第二回野間文庫読書推進賞は、みらの岩手の施設見学と自然探勝」と題する一泊二日のコースで、平成十二年六月三、四日の両日であった。参加者は三十名と少なかつたが、それでも八輪車を揃えて、次いで不來力城跡、原宿記念館、盛岡市、先人記念館、宮沢賢治記念館、高橋玄郎記念館と豊富に見学に参加者は満足した。

研修旅行 第一回（第四回）

見るこころ感じる心

第一回の研修旅行が行われたのは、平成十一年十一月二十九日であった。

顕彰会の会員から、野間清治の剛義した講義社を一度は見ておきたいとの要望が出されたのを機会に、講義社訪問が実行された。

その日は、講義社、恵園閣、六義閣、古河庭園のコースであった。特に講義社の新しくなった杜屋の素晴らしい景色に眼を見張り、野間清治の偉業の大さを思い知った。参加者は九十二名であった。

第四回は、平成十三年五月二十九日から三十日にかけて「響の文化を訪ねて、奈良から京都へ」の旅であった。

この研修にも目的があるが、このときは平山郁夫の「薬師寺大菩薩圖」を見るのが主であった。

コースは、鳥羽寺、薬師寺、平等院、源氏物語ミュージアム、三ツ戸寺、石山寺と、響の文化を心ゆくままに巡り歩いた。参加者は泊まりでも七十一名を数えた。

第五回は、野間家の別荘「古跡社」を中心に静岡方面に行く予定となっていたが、バスで八十八名の参加申込みがある。（須田利一 記）